

1 栃木市の概要

(1) 位置と面積

○市役所の位置 { 栃木市万町9番25号
北緯 36° 22' 57"
東経 139° 44' 03"
海拔 43m

○市の面積 331.50km² { 東西 22.3km
南北 33.1km



(2) 地勢

本市は、東京から北へ80km、栃木県の南部に位置し、壬生町、小山市、野木町、佐野市、鹿沼市などに接しており、また、茨城、栃木、群馬、埼玉の4県の県境が接している。

地勢としては、西に三轟山、岩船山、中央に太平山を中心とする太平山県立自然公園、南に渡良瀬遊水地など県南のシンボリックな自然景観と、渡良瀬川、思川、巴波川、永野川、三杉川などの豊かな河川を有している。また、北東部から南東部にかけては関東平野に連なる平坦地が広がり、県内有数の農業地帯でもある。

(3) 行政区域の変遷

年月日	
明治 22年4月	町村制が施行され、栃木町、藤岡町、大宮村、皆川村、吹上村、寺尾村、国府村、谷中村、三鴨村、赤麻村、部屋村、富山村、瑞穂村、水代村、家中村、赤津村、西方村、真名子村、岩舟村、小野寺村、静和村となる。
39年	藤岡町が谷中村を編入する。
昭和 12年 4月 1日	市制施行し、栃木市となる。
29年 9月30日	栃木市が下都賀郡大宮村、皆川村、吹上村、寺尾村を編入する。
30年 3月31日	下都賀郡家中村、赤津村が合併し都賀村となる。
30年 4月 1日	下都賀郡藤岡町、三鴨村、赤麻村、部屋村が合併し藤岡町となる。
30年 4月27日	西方村、真名子村が合併し西方村となる。
31年 9月30日	富山村、瑞穂村、水代村が合併し大平村となる。
31年 9月30日	下都賀郡岩舟村、小野寺村、静和村が合併し岩舟村となる。
32年 3月31日	栃木市が下都賀郡国府村を編入する。
36年11月 3日	大平村が町制を施行し大平町になる。
37年 4月 1日	岩舟村が町制を施行し岩舟町になる。
38年11月 3日	都賀村が町制を施行し都賀町になる。
平成 6年10月 1日	西方村が町制を施行し西方町になる。
22年 3月29日	栃木市、下都賀郡大平町、藤岡町、都賀町が新設合併し栃木市となる。
23年10月 1日	栃木市が上都賀郡西方町を編入する。
26年 4月 5日	栃木市が下都賀郡岩舟町を編入する。

(4)人口及び世帯数の推移

各年4月1日現在

区分		年度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
人口(人)	男		81,023	81,466	81,263	81,177	80,986
	女		82,884	83,290	83,046	82,588	82,184
	計		163,907	164,756	164,309	163,765	163,170
世帯数			59,302	60,700	61,566	62,460	63,352
1世帯当たりの人口			2.76	2.71	2.67	2.62	2.58

(住民基本台帳による)

(5)市章



<デザインコンセプト>

緑色の4本のラインは「自然」、「歴史」、「地域」、「人」を表し、青色はこれらがひとつとなった大河の流れを、その先にあるオレンジ色の円は輝かしい未来と人々の情熱を表しています。いままでの歴史を受け継ぎ、明るい未来へと続くイメージを栃木市の「と」の文字をモチーフに表現しました。

(6)産業別就業者数

平成22年10月1日現在

区分	就業者数(人)	構成比(%)	区分	就業者数(人)	構成比(%)
全産業	79,132	100.00	第3次産業	46,284	58.49
第1次産業	5,000	6.32	電気・ガス・熱供給・水道業	238	0.30
農業	4,972	6.28	情報通信業	654	0.83
林業	24	0.03	運輸・郵便業	5,310	6.71
漁業	4	0.01	卸売・小売業	12,934	16.34
第2次産業	26,584	33.59	金融・保険業	1,498	1.89
鉱業、碎石・砂利採取業	113	0.14	不動産・物品賃貸業	657	0.83
建設業	5,981	7.56	学術研究、専門・技術サービス業	1,496	1.89
製造業	20,490	25.89	宿泊・飲食サービス業	3,663	4.63
			生活関連サービス業、娯楽業	3,503	4.43
			教育・学習支援業	3,251	4.11
			医療、福祉	6,877	8.69
			複合サービス事業	591	0.75
			サービス業	3,204	4.05
			公務	2,408	3.04
			分類不能の産業	1,264	1.60

(平成22年国勢調査による。)

就業者構成図

